



TOYAMA
Prefectural
University

富山県立大学ニュース

平成15年5月発行
富山県立大学学生委員会

NO.59

平成15年度入学式



CONTENTS

- 新任教員紹介
- News Digest など



平成14年度学位記 および卒業証書授与式

3月24日(日)、大谷講堂において、平成14年度富山県立大学学位記および卒業証書授与式が行われました。

式では、中島恭一学長が「安全でしかも暮らしの向上に役立ち、人間の生活感覚や感性にも合うような人間協調型の技術開発など、人類の前には解決すべき大きな技術課題が山積しており、課題解決へみなさんの意欲と情熱が強く求められています。21世紀の進むべき方向を見据えた技術創造を迫る技術者や専門家として成長されることを強く期待しています」と、式辞を述べられました。

また、中津豊富山県知事が「今後様々な場面で多くの困難や課題に直面されることもあるかと思いますが、確固とした高い志を持って、新たな可能性に果敢にチャレンジしてください」と卒業生・修了生にエールを送られました。

授与式に併せ、各学科において成績優秀と認められた学生1名に、学長よりベストスチューデント賞が贈られました。この賞は、平成14年度卒業生から初めて授与されるものです。受賞された方は、次のとおりです。

工学部機械システム工学科

松原 千佳

工学部電子情報工学科

迫田 勝理

短期大学部農業技術学科生物生産専攻

加藤 拓也

短期大学部農業技術学科農業土木専攻

亀田小百合

短期大学部環境工学科

福島 美緒

平成15年度入学式

4月7日(日)、大谷講堂において、平成15年度富山県立大学工学部と大学院工学研究科並びに短期大学部と短期大学部専攻科の入学式が行われ、362名の新しい学生を迎えました。

中島恭一学長は、「自然が豊かで、学問・文化の伝統あふれる富山県での学生生活を通して、科学技術に対する素養と創造力を培って、新しい技術課題にチャレンジし、素晴らしい成果を収められることを心から期待しています」と、式辞を述べられました。

また、大木尚武富山県知事が「最先端の理論と技術、さらには広い視野と実践力を身につけた、次代のリーダーとして、大きく飛躍されることを願ってやみません」と知事の告辞を代読されました。

工学部の渡井悦子さん、大学院の長崎弘君、短期大学部の平林純一君が新入生を代表して「さまざまな出会いとふれあいを大切にし、生涯にわたる人生設計の基礎となる学生生活を送りたい」と大学生活に対する決意を述べました。

学術賞受賞



短期大学部の下坪訓次教授が日本農作業学会の学術賞を受賞されました。今回の受賞は、コメの直播栽培の最大の課題だった稲の倒伏防止につながる機械の開発が農業技術の発展に貢献することが認められたものです。開発された機械は、扇形型の切れ込みを入れた特殊スポンジの円盤を高速回転させ、稲が株状に生えるよう一定の深さに種をまくことができるものです。

表彰式は3月29日(日)富山県で開かれた同学会の春季大会で行われ、下坪教授は共同開発者の東北農業研究センターの富樫辰志機械化室長とともに記念講演をされました。

下坪教授は、「開発した打ち込み式播種機は、稲作の省力化・軽作業化技術として生産現場への導入が進んでおり、コンシカリ等への適用も容易なことから、直播技術の定着・普及の突破口となれば」と今後の展望を語られました。

就職模擬面接の実施

近年、学生の就職を取り巻く状況は、長引く景気の低迷や企業側の採用方針の見直し等により、大変厳しいものとなっており、面接選考はとりわけ重要度を増しています。

このため本学では、学生が身に付けた専門の能力・意欲を活かし、希望する企業・職種において活躍できるよう、企業の人事を担当された方に面接官をお願いし、就職試験に臨む学生に対し模擬面接を実施しています。

3月には平成16年3月卒業・修了予定者に対して2回目の模擬面接が行われ、延べ178名の学生が参加しました。ご指導いただいた面接官の方からは「会場への入退室、挨拶等の基本的な動作が練習不足である」「面接は自分を売り込む絶好の機会であることを認識して本番に臨んで欲しい」との意見がありました。

また、参加した学生からは「自分では気が付いていなかったことを指摘していただき大変参考になった」との感想があったほか、「企業についてよく研究し専門的な質問についても答えられるようにしたい」と就職活動への決意を新たにしたいという学生もいました。



新任教員紹介



工学部助教授

まつ だ ひろ なり

松田 弘成

(電子情報工学科)

4月1日付けで電子情報工学科助教授として着任致しました。松田弘成(まつだ ひろなり)です。安井教授に御指導いただきながら情報工学講座を協同で運営し、教育・研究・産学連携・地域貢献に邁進して参りたいと考えております。

3月までは日立製作所において光ファイバ通信用の光伝送技術の開発・設計に長年携わってきました。日立製作所に入社した当時、最初に手掛けたのは1Gbit/sの伝送速度の光電子集積回路でしたが、実際のビジネスでは400Mbit/sの伝送速度の製品が主流でした。現在は40Gbit/sの伝送速度の製品が商用化されようとしており、また入社当時では実用化されていなかった波長多重伝送方式が、10Gbit/sの伝送速度においては現在既に商用化されております。このような技術革新著しい光情報通信分野で会得できた知識・経験を、富山県立大学において生かしていきたいと考えております。更に電気信号に変換しないで光信号のまま処理を行う技術の研究、あるいは光ラベルスイッチルータの実用化の研究等の先端分野にも、専門領域を広げていきたいと考えております。

企業と大学との種々のギャップにより、突拍子もないことを申し上げることがあるかもしれませんが、少しずつ順応して参りたいと考えておりますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。



工学部講師

なか がわ しん じ

中川 慎二

(機械システム工学科)

機械システム工学科(流体力学講座)講師に任命されました中川と申します。私の専門は、流体力学、伝熱工学です。最近、画像処理を応用した熱流動の可視化計測に興味を持っており、この計測法を使って電子機器の放熱設計を高度化するための実験を行う予定です。皆さんがお使いのパソコンには、電子部品を冷却するためのファンが付いています。耳障りな騒音を生み出している部品です。私の研究が進み、放熱設計が今より高度なものになれば、もう少し静かなパソコンが登場するかもしれません。

私は京都に生まれ、滋賀で育ち、大学時代を再び京都で過ごし、米国イリノイ州と東京でそれぞれ2年間研究を行い、富山に来ました。富山は日本で有数の暮らしやすい県と聞いています。今までのところ、期待にたかわず、緑の多くゆったりとした町並みに満足しています。これまでの経験を生かしながら、日本の将来を支える人材の育成と地域社会・産業に役立つ研究を志し、精一杯努力を続けます。学生の皆さんとは、ともに学び・考え、たとえ少しずつでも、日々成長を続けたいと思います。がんばりましょう。皆様の御指導御鞭撻の程をお願い致します。



工学部講師

ほり かわ のり よ
堀川 教世
(機械システム工学科)

このたび4月1日付けで工学部講師として着任しました。堀川教世と申します。専門の設計工学を担当します。私はこれまで、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のフェローとして3月まで立命館大学で研究を行なってきました。専門はマイクロマテリアルの創製や特性評価で、主に炭素繊維に関連する研究を行なってきました。しかしながら、フェローという立場上「橋梁の補修・補強技術の開発」といった全く専門外の研究も行なってきました。これは産官学の連携した研究にかかわっていたためであり、かなり研究分野間のギャップに苦しみましたが、私にとっては貴重な体験でした。今後は、従来のマイクロマテリアル関係の研究に戻りますが、今までに蓄積した産官学の連携に関する知識と経験を生かして、教育・研究だけでなく富山県の産業の活性化にも何らかの形で貢献していきたいと思ひます。

私の生まれと育ちは奈良で、3年前からは遷置に住んでいました。3月末に小杉に引っ越してきましたが、北陸の冬は厳しいなど不安がっぱいですが、しかし、小杉の静かな環境は気に入っています。趣味は美味しい店を開拓することですので、近くにおすすめの店がありましたらぜひお教え下さい。



工学部講師

さな た かず あき
真田 和昭
(機械システム工学科)

このたび4月1日付けで工学部機械システム工学科構造材料工学講座の講師として着任しました。真田和昭(さなだ かずあき)と申します。材料強度学(前期)、材料科学工学(後期)を担当します。これまで、株式会社日立製作所 日立研究所に勤務していました。研究教育機関での勤務は県立大学が初めてとなります。なにかと勝手分らず、皆様にはご迷惑をお掛けすることになるかと思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。私の専門分野は複合材料工学です。大学院では極低温環境における高分子系複合材料の損傷・破壊挙動に関する研究を行ってきました。また、会社では大型発電機の電氣的絶縁材料、構造材料として用いられる高分子系複合材料の開発および長期信頼性評価を行ってきました。今後は環境材料工学の観点から、スマート(インテリジェント)材料などの新しい研究テーマにも積極的に取り組みたいと考えています。私は妻と2人の子供と共に小杉町に赴任してきました。小杉町の落ち着いた、静かな環境は子供の成長にとって良い環境だと思っています。私も研究教育者としてのびのびと大きく成長したいと思ひます。



工学部助手

いわ い まなぶ
岩井 学
(機械システム工学科)

この4月に機械システム工学科 生産システム工学講座の助手に採用されました。岩井学(いわい まなぶ)と申します。簡単に自己紹介しますと(卒業生の皆さんには近況報告になりますか)、私はこの富山県立大学の4回生です。卒業研究の際に現在の講座に配属され、修士、博士課程を修了し、1年間の研究生を経て、このたび助手として採用されました。専門は切削・研削・研削といったモノ作りに直結する分野です。最近の研究テーマは、マイクロ・ナノ加工、環境にやさしい加工、難加工材の高効率・高精度加工です。授業や学生実験等を通して、学生の皆さんと一緒に、モノ作りの楽しさを味わえるよう頑張ろうと思っています。

4月の入学式の頃、学内の大谷講堂周辺や中庭では、桜が今年も見事に咲きました。入学式に同席し、ちょうど10年前に私が本学に入学したときのフレッシュな頃を思い出しました。初心を忘れることなく、精進に励もうと気を引き締めたのでした。

学生の皆さん、そして卒業生の皆さん、ぜひ、お気軽に研究室にお越し下さい。お待ちしております。



工学部助手

たかの ひろのぶ

高野 博史

(電子情報工学科)

このたび4月1日付けで電子情報工学科助手として着任いたしました。高野博史（たかの ひろのぶ）と申します。中村清実教授のもと、生体における電磁波の影響に関する研究や電磁波技術の医療応用といった生体電磁工学分野の研究を精力的に行っていきたいと考えています。

私の出身は石川県の能登でありまして、学生時代を含めて昨年度まで金沢大学に所属していました。隣の県ではありますが、故郷である石川県から出て生活するのは初めてなので不安もありますが、それ以上の期待でわくわくしています。引っ越してきたばかりで慣れない環境の下、わからないことを周りの人たちからやさしく丁寧に教えていただきました。引越し早々、周囲の人たちの温かい心にふれることができました。親しい人たちが住むこの町は、静寂で自然が豊かな環境が私の故郷と似ていることもあり、充実した生活が送れると家族ともども、とても気に入っています。今、恵まれた環境のもと心を落ち着かせ、研究・教育に専念できることを幸せに感じています。

未熟もののゆえ至らぬ点が多々あるかとは思いますが、県立大学や富山県のさらなる発展に貢献できるよう精進していきたいと思いますので、なにとぞよろしくお願いいたします。



工学部助手

おぎ た しんじ ろう

荻田 信二郎

(生物工学研究センター)

4月1日から、県立大学工学部助手で着任しました、「おぎたしんじろう」です。出身は神奈川県です。前職勤務地の奈良県生駒市高山町から富山県射水郡小杉町に移ってきました。よろしくお願いします。生物工学研究センターおよび短期大学部（担当は有機化学です）も業務しますので、多くの皆様にお目にかかれる機会に恵まれ、うれしく思っています。

私はこれまで、植物バイオテクノロジーに関する研究に従事してきました。建材などで重要な針葉樹、地球環境保全に役立つマングローブ、コーヒー、ヤシなど熱帯の有用植物種、さらにはシンビジウム、など多くの植物を対象に組織培養法を用いた大量増殖技術の確立や遺伝子導入技術による形質転換を行っています。県立大学でも植物に関する教育・研究を発展させていきたいと考えています。

また、私事ですが、最近入籍したばかりで、公私共に新生活のスタートです。環境も良く、海の幸、山の幸にも恵まれ食べ物おいしい富山の地で充実した日々が送れることを楽しみにしております。



工学部助手

かま くら まさ き

鎌倉 昌樹

(生物工学研究センター)

この4月に生物工学研究センターの助手に着任致しました鎌倉昌樹（かまくら まさき）と申します。私はこれまで食品の機能性について研究を行って参りました。これから栄養化学、細胞生理学的な解析により人々の健康や病気の改善に役立つ機能性食品の研究に従事していきたいと考えております。また、富山の漢方・生薬に関する情報を活用し、生薬なども対象に含めた幅広い研究を進めて参りたいと考えております。

私は岐阜県の高山市近郊で生まれました。富山は高山に近く自然環境、食生活、文化などがよく類似しており、今回こちらに来て見る周りの風景に非常に懐かしさを感じています。このような良き自然環境のもとで研究をさせて頂くことに感謝致し、決意をあらたにこれからの研究・教育活動に精励して参りたいと考えております。これまで私は、企業において研究活動に従事してきており、大学に勤務致しますのは初めての経験であります。そのため、何かと戸惑いも多く、皆様にいろいろお世話になることもあるかとは存じますが、どうぞ宜しくお願い致します。

春季公開講座 かみいちふるさと町民学園の開講 (創生かがい大学)

本学では、地域に密着した大学として教育研究の成果を広く社会に理解してもらい地域社会の発展と生涯教育の一助とすることを目的に、高校生以上の方を対象に春季公開講座(受講料無料)を開講します。テーマは、「自然・人間・社会」です。

【テーマ】
自然・人間・社会

- 【開催日】 平成15年6月21日(土)、7月5日(土)
【場所】 上市町保健福祉総合センター(つるぎふれあい館)2階(上市町湯上野8)
【受講定員】 100名程度(先着順)
【修了証】 3講義以上受講された方に「修了証」を授与します。
【備考】 この講座の修了者には、県民力レッジの単位(5単位)が認定されます。
【講義スケジュール】 (13:00～受付開始)

日 日	時 間	講 義 題 目	講 義 者
6月21日 土 曜 日	13:30~13:45	開 講 式	上市町教育長 澤 柿 敦 誠
	13:45~14:45	色彩を感じる目のしくみ	富山県立大学講師 井 戸 啓 介
	15:00~16:00	子供の運動能力とトレーニング	富山県立大学講師 岡 本 啓
7月5日 土 曜 日	13:30~14:30	今日の家庭教育	富山県立大学教授 奥 田 実
	14:45~15:45	光源氏の栄華 ～曼陀羅としての六条院	富山県立大学教授 中 哲 裕
	15:45~16:00	閉 講 式	富山県立大学生涯学習推進委員長 野 村 俊

【申込方法】 6月13日(金)までに所定の申込書(下記問合せ先にご請求ください)を上市町教育委員会事務局文化振興係に持参又は送付するか、FAX(076-473-2085)でお申し込みください。

【問合せ先】 ●上市町教育委員会事務局文化振興係 ☎ 930-0393 中新川郡上市町法音寺1
TEL 076-472-1111(内線344-381) FAX 076-473-2085
●富山県立大学事務局教務課情報研究係 ☎ 939-0398 射水郡小杉町黒河5180
TEL 0766-56-7500(内線230) FAX 0766-56-6182
URL <http://www.pu-toyama.ac.jp> e-mail jouken@pu-toyama.ac.jp

博士の学位授与報告

3月24日月の学位記及び卒業証書授与式において、博士(工学)の学位を授与された方の氏名と論文題目は次のとおりです。

<機械システム工学専攻>

幸 塚 崇 三

内部混合型二流体噴霧器に関する基礎的研究
—ノズル内部流れとザウタ平均粒径を中心として—

村 井 勉

マグネシウム合金の押出加工に関する研究

<電子情報工学専攻>

本 保 栄 治

反応性ECRスパッタリング装置の開発と光触媒性酸化チタン薄膜の作製に関する研究

<生物工学専攻>

佐々木智満

植物由来放線菌が生産する生理活性物質に関する研究

河 南 崇 典

Studies on the multifunctional bromoperoxidase from *Pseudomonas putida* IF-3 and its application (*Pseudomonas putida* 由来の多機能性ブロモペルオキシダーゼの解析とその応用に関する研究)

為 廣 紀 正

Studies on novel bioactive substances and improvement of salinomycin production in industrial strain (新規生理活性物質に関する研究とサリノマイシン工業株の生産性向上について)

平成14年度卒業・修了生進路状況

	卒業・修了者数	就職者数	うち県内就職	進学者数	554学部院又は専攻科
工 学 部	168 (17)	94 (12)	38 (7)	72 (4)	65 (4)
機械システム工学科	85 (4)	55 (3)	22 (2)	30 (1)	30 (1)
電子情報工学科	83 (13)	39 (9)	16 (5)	42 (3)	35 (3)
短 期 大 学 部	119 (69)	50 (28)	46 (28)	54 (34)	20 (12)
学 農 業 技 術 学 科	73 (38)	28 (11)	25 (11)	38 (24)	14 (9)
生物生産専攻	43 (30)	10 (5)	8 (5)	30 (23)	9 (8)
農業土木専攻	30 (8)	18 (6)	17 (6)	8 (1)	5 (1)
科 環 境 工 学 科	28 (21)	12 (10)	12 (10)	14 (10)	6 (3)
専 生物資源専攻	9 (4)	3 (2)	3 (2)	1 (0)	0 (0)
攻 地域環境工学専攻	9 (6)	7 (5)	6 (5)	1 (0)	0 (0)
大学院・博士前期課程	52 (5)	49 (4)	10 (2)	2 (0)	2 (0)
機械システム工学専攻	20 (1)	18 (0)	4 (0)	1 (0)	1 (0)
電子情報工学専攻	24 (3)	24 (3)	2 (1)	0 (0)	0 (0)
生 物 工 学 専 攻	8 (1)	7 (1)	4 (1)	1 (0)	1 (0)

※就職状況の厳しいなかにも関わらず、9割を超える就職率を達成することができました。

()は女子内数

【業種別就職状況】



人 事 消 息

異動区分	職	氏 名	異動区分	職	氏 名
就 任 (15.4.1)	工学部長 学生部長	田 中 潔 奥 田 実	退 職 (15.3.31)	工学部教授 短期大学部助教授	石 井 成 行 宮 崎 平 三
新 採 (15.4.1)	工学部助教授 工学部講師 工学部講師 工学部講師 工学部助手 工学部助手 工学部助手 工学部助手	松 田 弘 成 中 川 慎 二 堀 川 教 世 真 田 和 昭 岩 井 学 高 野 博 史 荻 田 信 二 鎌 倉 昌 樹			
昇 任 (15.4.1)	工学部教授 工学部教授 工学部助教授 工学部助教授 工学部助教授 工学部講師	石 塚 勝 誠 川 越 忠 孝 福 原 芳 昇 坂 村 和 秀 高 木 和 秀 神 谷 和 秀			
転 入 (15.4.1)	教務課主幹 総務課副主幹 教務課情報研究係長 総務課管理係主任 総務課管理係主任 教務課短期大学部係主任 教務課工学部係 教務課工学部係 教務課情報研究係 教務課情報研究係 教務課情報研究係	芝 田 聡 司 仁 木 久 展 今 村 慶 彦 安 居 勝 誠 木 林 伸 一 高 木 明 河 尻 茂 行 荒 谷 宏 行 米 澤 浩 太 温 井 佳 子 松 下 光 次	転 出 (15.3.31)	教務課長 総務課副主幹経理管財係長 教務課情報研究係長 総務課管理係 総務課管理係 総務課管理係 教務課短期大学部係主任 教務課情報研究係主任 教務課工学部係 教務課情報研究係	海 野 進 一 尾 先 栄 邦 雄 山 田 素 子 肥 田 達 也 北 野 連 一 荻 生 元 一 田 村 祥 一 山 本 幸 子 須 藤 大 輔 長谷川 あかね

SCHEDULE

平成15年

大 学 院

工 学 部

短期大学部

1 日 開学記念日

5 月

28 日 土～29 日

サークルリーダー研修会

21 日 土・石川県農業短期大学
との文芸競技会

7 月

6 日 火・博士前期課程
入学者選抜試験

11 日 金・16 日 水～18 日 金
特別授業

16 日 水・前期授業終了

18 日 金・前期授業終了

15 日 火・前期授業終了

17 日 木～18 日 金・特別授業

7 月 22 日 火～8 月 4 日 水・前期試験

7 月 22 日 火～8 月 1 日 金
前期試験

2 日 土・ダ・ヴィンチ祭
オープンキャンパス

8 月

5 日 火～6 日 水
入学者選抜試験

28 日 木～29 日 金
中部公立短期大学文芸競技会

9 月

16 日 火～26 日 金
集中講義

10 日 火～26 日 金・集中講義

編集後記

「20世紀は、戦争の世紀であった」と言われるとき、その言葉には、「21世紀こそ平和の世紀になってほしい」という多くの人びとの願いが込められている。

残念ながら、新しい世紀も戦争でスタートした。そして今までと異なる理由でイラクでの戦争がはじまった。世界史で学んだことを思い返してみれば、ローマ帝国やナポレオンの時代、さらにナチスドイツ侵攻と今日の情勢がオーバーラップする。

富山県議会も、全会一致でイラク問題の平和的解決を求めたが、それは実現しなかった。現在は、これ以上犠牲者を出さずに戦争ができる限り早く終結し、イラクの人々が自らの手で国家を再建し、平和が訪れることを祈るをえない。

2003年に卒業して社会人となられた諸君、そして、新入生となられた学生諸君は、日本の経済状況も低迷し、平和も絶対とは言えない非常に不安定な年に、人生の節目を迎えられた。この事実をいつまでも心にとどめてほしい。

このような時代こそ、自分を見つめ、自己の確かな信念をもって、人生を歩んでほしいと思う。

メキシコ先住民の呪術師ドンファンは、文化人類学者カルロス・カスタネダに、「道は歩くためにある」と、また「自分の道と型」を持つべきであると言った。

とかく現代は、目的や結果ばかりが求められ、プロセスが軽視されがちである。また、人と同じ道をさらに同じスタイルを求める傾向がある。一歩ずつ自分の考えを確かめながら、確実に前に進んでほしい。自分の頭で判断すると言うことは、何についても批判的精神をもち、もう一度自分なりに考えてみることである。批判なきところに進歩はない。

卒業生、新入生、そして在学生一人一人が、着実に自らの道を歩いていくことを願う。

(奥田)